

大中PRIDE



大津町立大津中学校
生徒指導通信1号

令和6年4月19日(金)

文責：岡村 康平

「お姉ちゃんだから、できる！」

158名の1年生の皆さん、御入学おめでとうございます。入学式を終え、今週から授業が始まりましたが、どのような気持ちですか。中学校は小学校とは違う新たな要求があるかもしれません。具体的には「しなくないことだけれども、やらなければならないこと」逆に「したいことだけれども、我慢しなければならないこと、身につけなければならないこと」です。今後、2・3年生の先輩たちが「大中学生としてのお手本を示してくれる」ので、しっかりと先輩たちの姿を見てほしいと思います。



2年生は中核の学年として、3年生は最高学年としての1年がスタートしました。先週の入学式の準備、生徒会執行部の対面式での運営、部活動紹介でのテキパキとした姿、とても頼もしかったです。今年度の生徒会スローガン『革新』。これまでの大津中学校の良い伝統を受け継ぎ、新たに良い伝統を構築していこうというあなたたちの思い。達成できると、職員一同信じています。

さて、昨年度の「大中PRIDE第1号」でも書かせてもらいましたが、中学校では「何を」学ぶと思いますか…。もちろん、国語、数学、英語、理科、社会、保体、技術・家庭、美術、音楽…等の各教科の学習もします。しかし、それ以上に、中学校は、将来皆さんがどんな道を進んでも、頑張っていけるための大事な「態度やスキル（勉強や生き方）」を学ぶ場所であると思います。「自分は明日から社会に出ても大丈夫」という人はおそろくないと思います。「自分で率先して何事にも取り組む」という「自力」も大切だと思いますが、中学校は「他力」も大事です。つまり、仲間と協力して様々なことに取り組んだり、先輩や先生から多くのことを学んだりすることなどです。

だからこそ、周りの方から「教えてあげたい」「応援してあげたい」と思われるような人になることは、自分自身が成長していく上で、とても必要なことです。そして、教えてもらったことを謙虚に受け止め、『心の中にしまっておく』必要があると思います。入学してすぐは、みんなとても「素直」で、色々な方からのアドバイスを受け入れることができます。ところが、人は慣れてくると素直でなくなったり、人の話を聞かなくなったりしてしまいます。そうなってしまうと何も学ばないまま、中学校を卒業していってしまうのです。

大津中学校では「傾聴・挨拶・時間・掃除」という「大中ブランド」と呼ばれるものがあります。「傾聴」は自分の心を開いて、相手の話をしっかりと聞くこと。「挨拶」は相手より先に笑顔で気持ちの良い挨拶をすること。「時間」は時計を見て行動し、しっかりと時間を守ること。「掃除」は毎日使っている学び舎に対し、感謝の気持ちを持ちながら黙々と掃除をすること。これらのことを守り続けるのは簡単なことではないかもしれません。しかし、しっかりと守り続けた人は中学校生活3年間で人としての成長を感じられるはずで、そういう人たちが「応援される人」になるのではないのでしょうか。

話は変わりますが、姪が3歳になり、0歳の弟ができました。昨年度までは、「ママ、にんじん食べたくない。」と言っていた姪っ子。しかし、弟が産まれてからは、ワガママを言わなくなり、家族のお手伝いまでするようになり、何か頼まれ事をいわれると、「お姉ちゃんだから、できる！」と言うようになっていました。

人は環境が変化すると、不安や期待に胸をふくらませます。学年が変わった今、去年のあなたと比べて、何か成長している点はあるのでしょうか？

初めから「もう無理…。」や「どうせできない…。」と下を向いて諦めるのではなく、「私ならできる。」や「失敗するかもしれないけれど、やってみよう。」と前向きな姿勢で何事にも取り組んでほしいと思います。大中学生であるあなたたちならできると信じています。

あなたなら、できる！